

あけぼの通信 第8号

2021. 4. 1 (株)浜田あけぼの水産

ご挨拶

社長の室崎拓勝です。島根県では春らしく過ごしやすい日もあれば、初夏を感じさせるくらいに気温が上がり、日中は半袖で過ごせる日もございます。朝と昼の温度差が大きいので毎朝何を着ていくか悩んでしまいます。今春は島根県の高校、沖縄県の高校と新卒2名を新人乗組員として迎え入れる予定です。昨年も新卒の乗組員を2名採用し、1名は継続して頑張っております。今年の新卒は2名とも下船することなく、将来は浜田の漁業を引っ張ってくれる乗組員に成長することを期待したいと思います。

機関長紹介

今回は第十一あけぼの丸の機関長を務める小谷佳弘機関長を紹介いたします。小谷機関長は京都府出身の49歳、若い頃は近畿のラジオ局で勤めていたこともある、いわゆる転身組の漁師です。

「海の男として生きていく」と決めてから、漁師として長年多くの経験を積んできたことで、ついには機関長まで上り詰めた実力者です。縁あって一昨年から機関長としてあけぼの丸に乗船しています。

性格は温和で人当たりも良いため、競り市場の仲買人たちからは受けが良く、浜田の水産業界では顔が広いです。また、体を動かすことが好きで、休日はゴルフ、冬ならスキーを楽しんでいます。

ちなみに、ラジオ局時代のつながりから今でも有名芸能人とやり取りをしているようで、話題に尽きることもないとてもユニークな機関長です。



今月のお魚紹介 「ソウハチ」

浜田でどんちっちかれいと呼ばれているのは、笹がれい(ヤナギムシガレイ)、瑞(みず)(水)がれい(ムシガレイ)、えてがれい(ソウハチ)の3種です。えてがれいの本名はソウハチ(宗八)です。「えて」って、所謂お猿さんのことで、少し馬鹿にした名前ですが、これがどっこい、どんちっちかれい3種の中で最も脂が乗っており、おまけに一番価格も安い庶民の味方です。秋から翌年春先までの時期は、脂の乗りも最高潮に達し絶品で



す。骨も柔らかく、小型のものは縁側部分もそのまま食べられます。地元では、贈り物には笹がれいや水がれいが珍重されますが、自宅用は断然えてがれいが人気です。

ソウハチの漁場は水深 100～200m で、ムシガレイより少し深い沖側で漁獲されます。隠岐諸島から対馬にかけての海域は日本有数の漁場となっています。

当社でご提供している「宗八一夜干し」は、秋から冬場に山陰沖であけぼの丸が漁獲した脂の乗ったえてがれいを、浜の匠が浜田の良質な水と薄塩で調え、冷風で干して、旨味と脂肪分をたっぷり残したまま急速冷凍したものです。庶民の味をご満喫下さい。焼き物はもちろん、薄味なのでから揚げにもおすすめです。

浜田近況レポート(勝手に浜田桜八景)

桜の季節がやって来ました。今年は全国的に桜の開花が早かったようですが、浜田市の桜も3月下旬には満開になりました。今回は、筆者の独断で浜田市の桜八景をご紹介します。

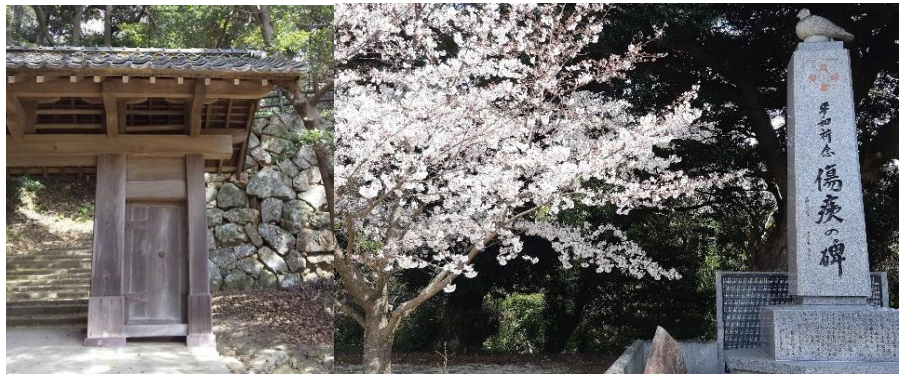
まずは、原井町ザグザグ浜田原井店裏の桜。元々は昭和天皇が植樹された桜で、現天皇陛下が皇太子時代に展望された地です。マリン大橋と桜の花が見事に調和しています。



港町の高尾山から半田港を見下ろした景色です。高尾山には世界平和を祈願した平和の鐘が設置されていましたが、現在は三隅町の龍雲寺に移設されています。



殿町城山の桜です。城山は浜田城跡地で、普段なら花見の宴会で賑わう場所ですが、コロナ禍で人もまばらです。



殿町、浜田市役所裏浜田川沿いの桜並木です。川面に満開の桜が映えています。



原井町の道の駅「ゆうひパーク浜田」の桜も満開でした。公園では、お弁当を広げる家族連れがちらほら見られました。



左は天満町の神並山天満宮、右は相生町の三宮神社です。三宮神社では夜神楽が開催されています。

最後は国の天然記念物、三隅町の「大平桜」です。彼岸桜と山桜、両方の性格を持った貴重な品種の桜です。推定樹齢は約 660



年、幹回り約 6.3 メートル、枝張りは約 30 メートルにも及ぶ見事な桜です。今年も見事な花を咲かせてくれました。

今月の一句

